

令和5年度 授業改善推進プラン6年（課題分析と授業改善策）

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 書くことに時間がかかる児童が多いため支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元終わりに感想を書いたり、ワークシートにまとめたりして書く活動を取り入れる。 読書週間などに本の紹介を書く活動を入れる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 記述形式の問題になると書けなくなる児童が多くいるため支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のまとめをキーワードをもとに自分で書かせることで、文章にまとめる経験を積ませる。 調べてまとめる学習活動を学期に1回以上行う。
算数	<ol style="list-style-type: none"> 文章問題に対して取り組む前から苦手意識を持っている児童が多いため支援が必要である。 答えを導くことはできるが、「なぜそうなるのか」を式や言葉を使って自分の考えを書くことが難しい児童が多いため支援が必要である。 	<ol style="list-style-type: none"> 線分図を書いて問題の構造を理解してから正しく立式できるようにする。単元の終わりに文章問題や応用問題に自分の力で取り組む時間を設ける。 自力解決場面では、自分の考えを式や言葉を使って表す活動を取り入れる。また、自分の考えをペアなどで伝え合う活動を取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題を意識した考察ができなかったり、考察を書くことに苦手意識を持ったりしている児童がいるため支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 考察する前に学習問題を確認したり、キーワードを提示したりする。
音楽	<ol style="list-style-type: none"> 歌唱：強弱や速さ等、表現の方法に支援が必要である。 器楽：楽譜の読み方、楽器の奏法に支援が必要である。 鑑賞：音楽的な言葉の使用、聴き取った事や自分の考えを相手に伝えるよう的確な言葉（音楽用語を含む）で表すことが必要である。 	<ol style="list-style-type: none"> 録音するなどして自分たちで客観的に聴く。 楽譜の記号等の説明、ペーパーテスト等で定着、多くの楽器を体験する。 音楽的用語を意識して使わせる。発言しやすい雰囲気を作らせ、間違いを怖がらずに自由に発言することに慣れる。
図画工作	<ol style="list-style-type: none"> 発想を広げることに自信がもてず、活動に取り組むまでに時間がかかったり、活動に入れなかったりする児童もいるため支援が必要である。 刃物など用具の扱いに注意することができる学年だが、充分理解せずに使ってしまう児童もいるため支援が必要である。 	<ol style="list-style-type: none"> 実際にものを見て表す題材、感触や動作で感じる題材などいろいろな活動から制作に展開し、視野を広げたり、発想の広がりのきっかけとしたりする。 用具の扱いのポイントを繰り返し抑え、児童の実態に応じて個別にも指導を重ねる。
家庭	<ol style="list-style-type: none"> 用具の安全な取り扱いができるが、製作活動では時間がかかったり用具を使いこなせなかったりと生活経験の差が大きく、技能の個人差が大きい。十分身につかない児童もいるため支援が必要である。 製作の際、完成までの製作時間の見通しがもてない児童が多いため支援が必要である。 	<ol style="list-style-type: none"> 実習を重視し、繰り返し作業する中で技能を習得できるようにする。また、児童の実態を把握し、個人差に応じてきめ細かい指導を行う。 制作活動では、作業の順序、作業時間、工夫するところなど、児童一人ひとりにお応じたためあてをもたせ、完成までの見通しをもてるようワークシートを利用する。
体育	<ol style="list-style-type: none"> 投の運動の能力を苦手としている児童が多いため支援が必要。 運動することに対して、向上心が低い児童が多いため支援が必要である。 	<ol style="list-style-type: none"> 体づくり運動で投の運動を取り入れていく。 スモールステップでできることが増えたと感じるようなワークシートの工夫をする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 会話のやり取りに慣れておらず、反応したり、聞き返したり、答えたりすることができない児童が多く、支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティーで、ペア、小グループなど様々な形態で会話のやり取りをする時間を設ける。またフィナンシャルアクティビティーでは、発表だけでなく、会話形式も取り入れる。
ICT端末の活用	<ul style="list-style-type: none"> 体育科の学習で動画撮影をして動きの確認をする。 社会科の単元のまとめを「スクールタクト」などにまとめる。 理科の実験結果を撮影し、保存していつでも確認できるようにする。 	